

鼻煙壺 沖 正一郎コレクション

小さきものは皆うつくし



300点を一挙に展示
小さな芸術品がつくる
大きな世界

2016年

2月14日(日) - 28日(日)、3月5日(土) - 21日(月)

開館時間：午前9時 - 午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：2月15日(月)、22日(月)、2月29日(月) - 3月4日(金)、
3月7日(月)、14日(月)

入館料：無料

主催：渋谷区立松濤美術館



渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14
TEL.03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp/>

鼻煙壺とは、嗅ぎたばこを携帯する容器のことで、17世紀以降、中国で独自につくられました。嗅ぎたばこは、粉末状のたばこを鼻から直接吸い込んで香りや刺激を楽しむためのもので、特に薬としての効能があると信じられていました。たばこは16世紀半ばごろにアメリカ大陸からヨーロッパへ伝えられ、さらに17世紀後半ごろに中国へと伝わりました。ヨーロッパでは箱型の容器にたばこの粉末が納められていましたが、中国では湿潤なアジアの気候に合わせ、より密閉度の高い壺や瓶のかたちの容器が作られました。これが鼻煙壺です。

当時の中国の宮廷では、趣向を凝らした鼻煙壺を所有することは地位の高さや豊かさを表していました。そして、鼻煙壺の魅力はその多様な素材と精緻な技法にあります。陶磁、ガラス、金属、貴石・石、動植物などの素材を用いて、精密な技巧を遺憾なくほどこし、またときには素材そのものの特徴を見事に生かし、実に多彩です。もともと携帯用としてつくられた10センチにも満たないその器には中国工芸の技術が集約されており、しばしば「中国美術の小宇宙」と評されます。

本展で展示する作品はすべて、世界的な鼻煙壺コレクター・沖正一郎氏のコレクションから約300点を厳選しました。平安時代の随筆『枕草子』に記される「小さきものは皆うつくし」という言葉から、わたしたち日本人が古来より小さいものを愛でる心をもっていただことがわかります。その系譜の体現者として確かな審美眼をもつ沖氏が出会った、鼻煙壺という「小さきもの」の魅力をご紹介します。



沖正一郎コレクションの
「小さきもの」たち

- 1 白ガラス雕琢上絵巻文鼻煙壺
- 2 白ガラス三彩楼閣花鳥文鼻煙壺
- 3 礫岩石鼻煙壺
- 4 紫砂白堆山水文鼻煙壺
- 5 象牙籠形鼻煙壺
- 6 石鼻煙壺
- 7 雪片ガラス赤赤せ八吉祥文鼻煙壺
- 8 黄ガラス鼻煙壺
- 9 青ガラス上絵八吉祥文鼻煙壺
- 10 七宝鳳凰文鼻煙壺

学芸員による鼻煙壺ガイド

2月20日(土)、3月12日(土) 午後2時より
※事前予約の必要はありません

館内建築ツアー

松濤美術館ならではの建築デザインや素材について解説します。
2月19日(金)、3月11日(金) 午後4時より
※定員20名



JR・東京メトロ渋谷駅下車徒歩15分 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14
TEL.03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp/>

同時開催：2016松濤美術館公募展 2月14日(日)～28日(日)
第34回渋谷区小中学生絵画展 3月5日(土)～21日(月)
天野房三洋画展(仮称) 2月14日(日)～28日(日)、3月5日(土)～21日(月)